



# 高度IT資格の個人認証に関する 情報処理学会モデル

2012年9月5日

情報処理学会 高度IT人材資格制度設計WG座長  
芝田 晃（三菱電機）

- 検討の目的と課題
- 資格認証スキーム
  - 業務経歴書と達成度指標チェックシート
  - スキル熟達度チェックシート
  - 推薦書
  - 資格審査
- 資格更新
- 運営体制(案)
- 今後

## ■ 目的

### 1. 共通キャリア・スキルフレームワークおよびITSSに準拠した認証制度

- ◆ レベル4以上の業務遂行能力を持っていることの判定に必要な業務経歴の確認と実績の評価を実施

⇒『社内プロフェッショナル認定の手引き』(IPA)を参考にして、  
**達成度指標、スキル熟達度を評価**

(注)当面、テクニカルスペシャリストを対象

(ITスペシャリスト、アプリケーションスペシャリスト、ソフトウェア開発)

### 2. 国際的に通用する資格

- ◆ 情報処理学会が、資格認証機関としてIP3より認定を受けられる  
⇒**資格更新制度、倫理要綱、行動指針、懲戒制度を制定**

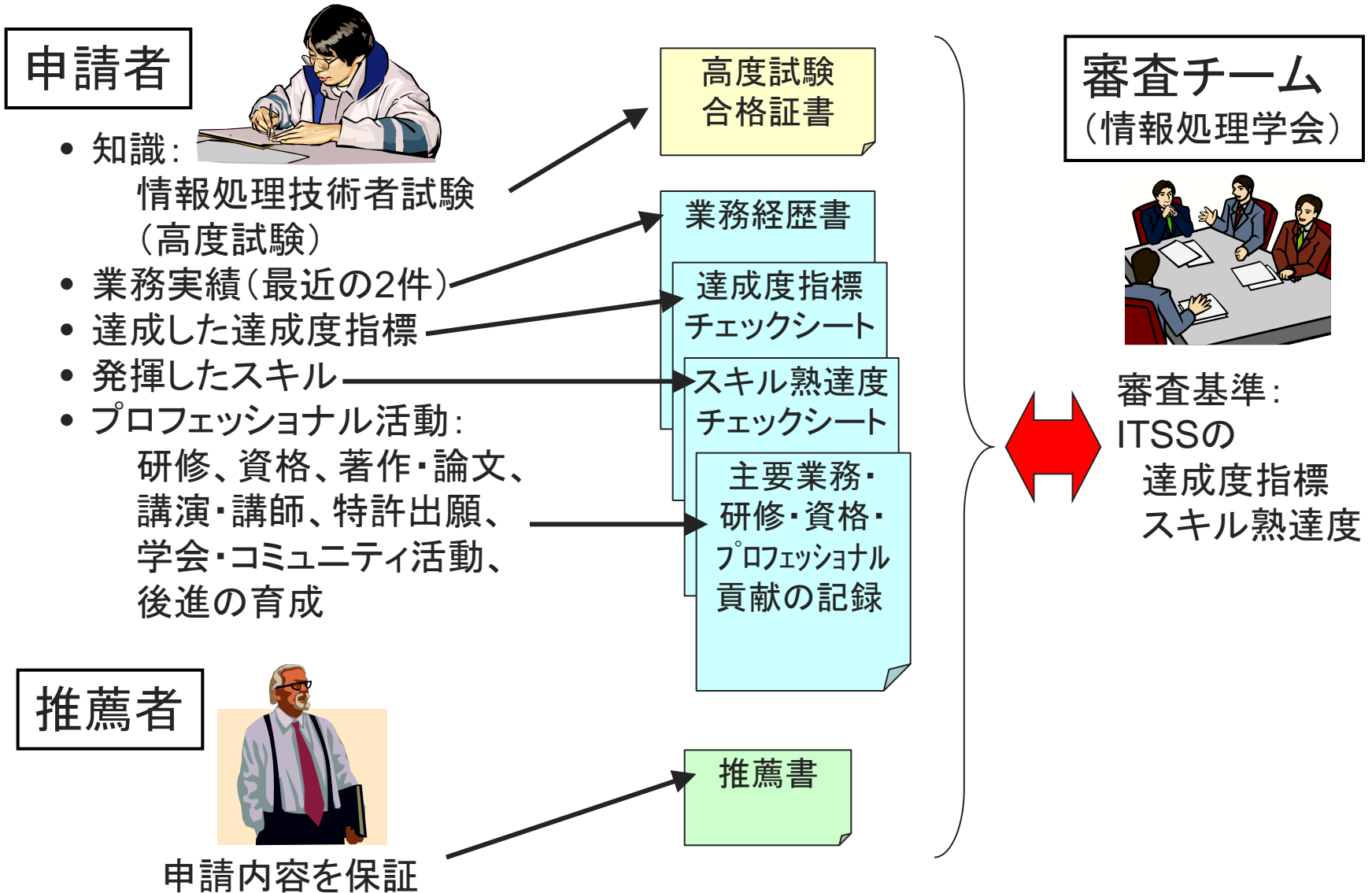
## ■ 課題

- **業務実績の評価の信頼性確保**
- 資格更新時、知識面以外に、**業務遂行面**も評価

## ■ 検討体制

- 芝田(座長、三菱電機)、旭(日立)、大森(NTT)、田多井、小島(東芝)、松浦、高橋(NEC)、並木(三菱電機)、八木、落谷(富士通)、佐立(日立)

# 資格認証スキーム



# 業務経歴書と達成度指標チェックシート



## ■ 業務経歴書

- プロジェクトの名前、規模、期間、概要、体制、システム構成
- プロジェクトへ参加した期間と役割
- プロジェクトの課題と対応、適用した新たな手法／工夫
- コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメント
- プロジェクト結果の評価、顧客評価
- 後進育成への貢献
- 活かしたスキル分野／専門性

## ■ 達成度指標チェックシート

- ITSSのどの指標を達成したか示す。
- この達成度指標に関する活動や成果を、業務経歴書に詳述。

達成度指標の例: ITスペシャリストのプラットフォーム専門分野のビジネス貢献

- システム化対象範囲、機能が広範囲でかつ複雑
- 先進的で、使用実績の少ないプラットフォームを使用
- クロスプラットフォーム間のデータベース連携を持つ
- ミッションクリティカルなシステムであり高品質を要求
- 24時間365日の連続稼働が要求され、変更、保守、障害回復に高度な設計が必要
- データ量が膨大で対応に高度な技術が必要
- プロジェクト体制が複雑であり調整が非常に困難

# スキル熟達度チェックシート



- 業務実績の中でどのような場面でどのようなスキルを活用したかを簡潔に記述

(スキル熟達度の基準の例:ITスペシャリストの共通スキル)

テクノロジー	技術チームリーダーとして、最新技術動向を踏まえた適用技術の選定をリードすることができ、複雑性の高い技術的問題解決を実践することができる。
ソフトウェアエンジニアリング	技術チームリーダーとして、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法などのソフトウェアエンジニアリング技術について経験の浅いメンバに対してアドバイスを与え、業務を遂行することができる。
業務分析	技術チームリーダーとして、業務要件、技術要件分析を行うことができる。
コンサルティング技法の活用	技術チームリーダーとして、コンサルティング技法を活用し、プロジェクトを実施することができる。
知的財産管理活用	技術チームリーダーとして、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。
プロジェクトマネジメント	技術チームリーダーとして、プロジェクトマネジメント職種と協業し、プロジェクト計画策定、計画実施、変更管理を行い、プロジェクトを遂行することができる。
リーダーシップ	技術チームリーダーとして、指揮、命令しプロジェクトを実施することができる。
コミュニケーション	技術チームリーダーとして、プロジェクトメンバとのチームコミュニケーションを図りプロジェクトを遂行することができる。
ネゴシエーション	技術チームリーダーとして、プロジェクトチームメンバと技術的課題に関する合意を形成できる。

- 申請内容に誤りが無いことを保証
- さらに、以下を記述し、推薦書の信頼度を向上
  - 申請者が発揮したスキルや果たした責任
  - 申請者の良い所
  - 認証を受けた後に期待する働き
- 推薦者
  - 原則、高度IT資格を持っている人
  - 職場での上司や元上司
  - 顧客(申請者が個人事業者の場合など)

- 書面での審査
  - サンプルで、インタビューを実施。(牽制機能を持たせる。)
- 方法
  - 3人の審査者からなる審査チーム
  - 各審査者が評価結果を持ち寄り、評価に違いがあれば検討
- 審査者の条件
  - ITSSを理解
    - ◆ 同一職種のプロフェッショナル、または、その職種の要件を理解している人
  - 評価能力を保有
    - ◆ レベル4の認証を受け数年以上のレベル4の活動経験がある人
    - ◆ または、レベル4の人材を育成したり管理したりしている人
- 審査員の選定
  - 審査者からの推薦や学会への応募を基に、審査経験者による面接
  - 当初は、学会が選定

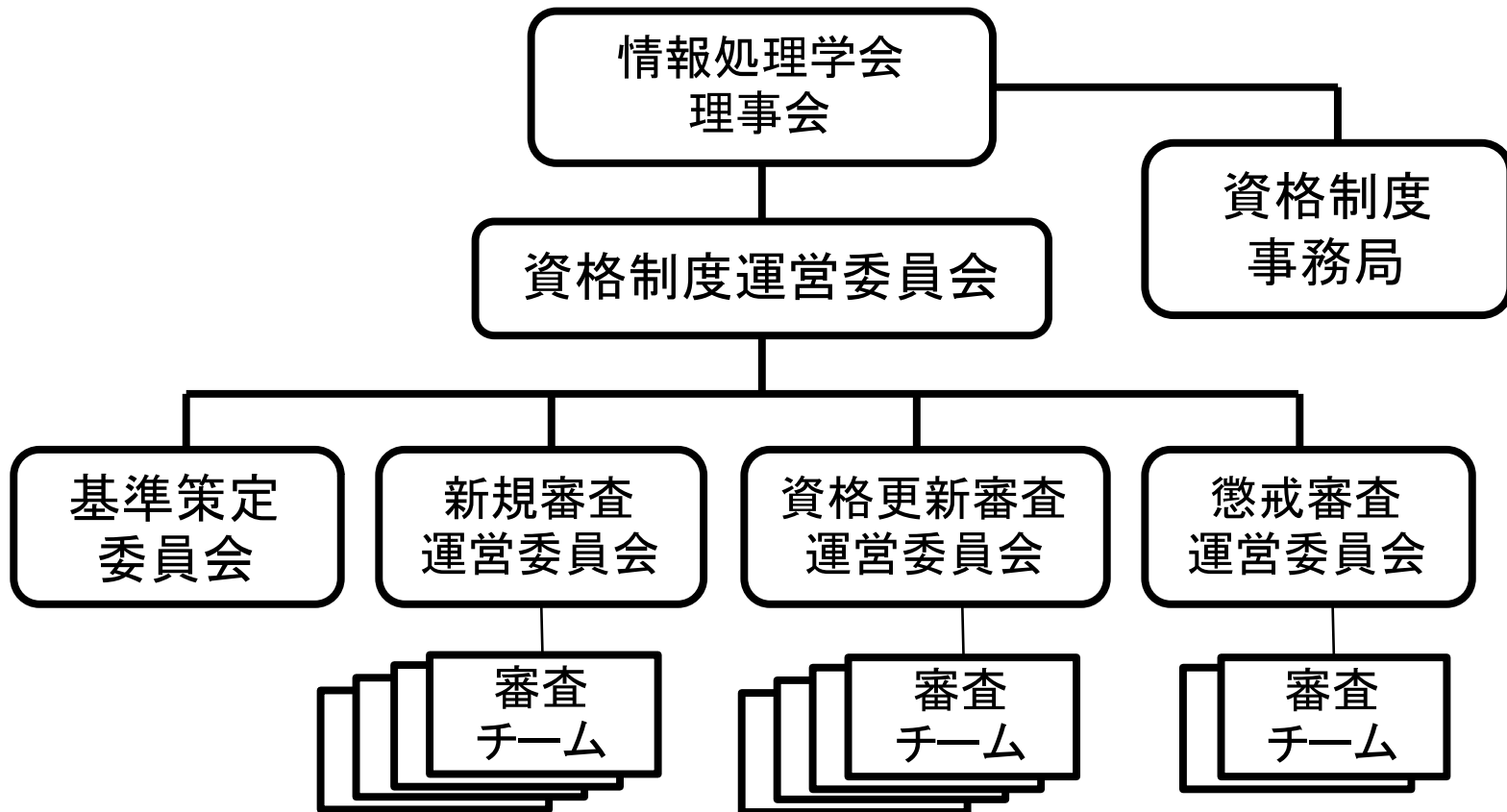


- 3年毎
- 業務遂行能力
  - ITSSLレベル4又はそれ以上の知識やスキルを発揮して、IT分野での業務を成功裏に実施していること
  - 資格取得時に申請のあった職種や専門分野に限定しない
    - ◆ 役割の高度化、技術領域の拡大や変化に対応
- 継続研鑽：CPD (Continuing Professional Development)
  - 技術士CPDを参考に設計
    - ◆ 講習会、研修会、講演会、シンポジウム等への参加(受講)
    - ◆ 論文・報告文などの発表・査読
    - ◆ 企業内研修(受講)
    - ◆ 研修会・講習会などの講師・修習技術者指導
    - ◆ 産業界における業務経験 など
  - 3年間で150CPD時間以上

# 運営体制(案)



- 基準策定委員会と審査運営委員会によるPDCA
  - 申請の容易性、審査の信頼性、運用効率などを改善



- 制度を試行して有効性を評価後、運用を開始
- 申請の前提条件の拡大や、職種の拡大による対象者の拡大についての検討
- 資格の魅力をさらに増すために、ITSSLレベル5以上の資格についての検討

**ご清聴ありがとうございました**

E-mail:

[Shibata.Akira@ce.MitsubishiElectric.co.jp](mailto:Shibata.Akira@ce.MitsubishiElectric.co.jp)